※言語活動記入例

**【「海の命」登場人物関わり図】**

②

①

①

☆「この言葉を聞いた太一はどのように考えたのか（どのように受け止めたのか）」について

本単元で，児童に身に付けさせたい力は，「登場人物同士の関係を捉え，登場人物の生き方について自分の考えをまとめる力」です。この力を身に付けるために，児童は，「登場人物の行動や会話と生き方や考え方を関連付け」ながら考えていくことが大切です。

本単元では，「関連付ける」ことを，登場人物の行動や会話，様子を表すいくつかの表現から，登場人物の生き方や考え方を想像することと捉えています。

左記の例では，①（　　　　　部）は登場人物の行動や会話，②（　　　　　　部）は①から想像できることです。

評価をする際は，想像して書いた部分が，登場人物の行動や会話を基にすることができているのかに注目するとよいでしょう。

|  |
| --- |
| **「海のめぐみだからなあ。」** |
| 父 |
| ２メートルもある大物をしとめたとき，じまんすることもなく言った。 |
| 太一は，「ぼくは，漁師になる。おとうといっしょに海に出るんだ。」と言ってはばからなかった。このことから，大物をしとめても，じまんすることもなく，「海のめぐみ」だと言う父へ，あこがれをいだいていたことが想像できる。 |

どのような場面でどのような様子で言ったのか

この言葉を聞いた太一はどのように考えたのか（どのように受け止めたのか）

だれが言った言葉なのか

①

①

②

登場人物の生き方に対する自分の考えを書く。

|  |
| --- |
|  |
|  |
|  |
|  |

|  |
| --- |
| **「千びきに一ぴきでいいんだ。千びきいるうち一ぴきをつれば，ずっとこの海で生きていけるよ。」** |
| 与吉じいさ |
| つりをしているとき，独り言のように語った。 |
| 太一は，一人で漁に出るようになってからも，１本づりで20ぴきのイサキをとっていた。このことから，与吉じいさの「千びきに一ぴきでいい」というこの言葉が，太一が海で生きていく支えとなったのだろう。 |